

(様式 1)

# 自己評価票

## 【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。

サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。

この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 6 月 19 日									
法人名	株式会社 カムネスライフ									
代表者(理事長)名	代表取締役社長 鉄村 英樹									
介護保険事業所番号	2	7	9	6	5	0	0	0	1	1
サービスの種類	① 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 ・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホームここから堺たんぼぼ村									
事業所所在地	堺市北区中村町198-1									
記入担当者職・氏名	(職) ケアマネジャー (氏名) 小松 淳子									
連絡先電話番号	072-240-5001									

## 自己評価項目構成

### ・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### ・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### ・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### ・サービスの成果に関する項目

## 【自己評価の実施方法】

運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業員と協議しながら実施してください。

「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、

利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
<b>1.理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・家庭的な雰囲気・穏やかな生活・いつも笑顔	各職員が理念を再確認しながら、理念に近づけるようにしたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすい位置に掲示している。	理念の実践に向けての取り組み方に職員により差があるのが現状だと思う。中には理念を知らない職員が居るかもしれない
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議及び家族会を利用して当施設の理念を理解していただけるよう取り組んでいる	運営推進会議及び家族会を利用して当施設の理念を理解していただけるようこれからももっと取り組んでいきたい
<b>2.地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中、顔見知りになったご近所の方からお声をかけていただいている。	こちらからの挨拶をもっと摂食的にしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋祭りの地車曳航時、当グループホームの駐車場にも入っていただき、入居者の方にも喜んでいただいている。	地域との交流を目的に、9月30日バザーの計画を立てている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ、実施には至っていない。		よく利用させていただいている近所の公園の掃除を今後して行けたらと思う。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年4月外部評価を受けたが、その後職員の増加もあり、そのとき指摘のあった問題点も全員に浸透していないと思う。		管理者及び職員と一緒に話し合い評価内容の検討を行っていききたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの意見を市、会社に相談し可能な限り努めたいが現在はまだ実施されていない		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも市町村へ行く機会があり話をするがサービス向上の話し合いは十分にできていない		市町村と話し合う機会をつくりサービスの向上に取り組んでいきたい
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホームの勉強会において、6月19日地域包括支援センターの社会福祉士より成年後見制度について話を聞く。(当グループホームからの参加は1人であった)		話を聴きに行った職員を中心に他の職員と話し合う機会をつくっていききたい
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関するパンフレット等をいつでも見て学べるよう用意している。緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書に、該当者のご家族の同意を得た文書を残している。		外泊後の身体チェックも可能な限り行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>村長、管理者が行っている。</p>	<p>利用者様、家族様とは十分に話し合い契約時、解約時ともに不安が無いように取組んでいきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>下足箱上に意見箱を設置しているが、今のところその利用はない。</p>	<p>利用者からの意見、不満、苦情なのか、あるいは、自己中心的なわがままなのかを見極める公正な目をもてるようにしたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>身体状況に変化があれば、主治医と連絡をとりながら家族に報告をしている。</p>	<p>緊急な場合は、事後報告になる場合もある。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>下足箱上に意見箱を設置しているが、今のところその利用はない。</p>	<p>意見箱を設置しているが設置位置の見直しをしておきたい</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回のミーティングを開催している</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の退職や勤務日数の減少、1人夜勤への移行期にあたり、調整がかなり困難であった。(6月21日～7月20日のシフト)</p>	<p>利用者様、ご家族様の状況を話し合いできるかぎり要望にそっていただけるとおもう</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等する職員が自主的に利用者様と話をしている		職員の離職等、利用者様にダメージが内容配慮していきたい
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトが決定した後での研修の通知があったりする。他の職員に迷惑がかかるので、なかなか研修を受ける機会がない。		大阪社会福祉協議会からの研修はかなり早い段階で通知されるので大変ありがたいが、職員の離職が重なったりすると、シフトの関係上言いづらい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の北支所管内のケアマネ連絡会や、グループホーム勉強会に参加したいと思うが、シフトの都合上思うように参加できない。		今後も積極的に参加していきたい
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場からの声を運営者は汲み取ろうとしている雰囲気は感じるが、経営者としての考えが前面に出ているように思う。		夜勤1人体制に向けての職員のストレス軽減への取り組みをもう一度踏み込んで欲しい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	今現在では、資格手当てを実施しているが職員一人ひとりとの話し合う機会が少ない。		シフトに入らず、自由に動き回れる時間の確保に努めて欲しい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>村長、管理者がその任務を行っている。</p>	<p>村長、管理者だけではなく職員一人ひとりが利用者様と話す機会をできるかぎりもち信頼関係つくっていききたい</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>村長、管理者がその任務を行っている。</p>	<p>村長、管理者だけではなく職員一人ひとりが利用者様と話す機会をできるかぎりもち信頼関係つくっていききたい</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>村長、管理者がその任務を行っている。</p>	<p>事前の生活歴当の収集に努めたい。入居後になるとご家族と話し合う機会や聞き取るタイミングが無くなることが多い。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所のシステムを利用する場合もある。</p>	<p>共同生活に対応できるのか、また、入居希望者が気に入ってくださるのか野お互いの確認のため、体験入所から始めている。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>1体1になれる入浴時等に、コミュニケーションを十分取るよう努力している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時、最近の利用者の方の様子をお知らせしている。		次回ご家族の来訪時まで時間がないときには、必要に応じて電話で連絡をし、本人を支えていくよう協力してもらっている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	嫁姑関係が悪化し、入居された利用者もいる。入居により関係が今よりも悪化せず、少しでも好転するよう願っている。		嫁が姑の声を聞くのも拒否しているケースでは、姑からのハガキでの接触を促すよう支援している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知人、親類等の訪問時間も特に夜遅くならなければお越し頂いている。		今後も努めて行きたい
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	目配り、気配りをし、関わり合いを持つよう努力している		今後も努力していきたい
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の生活に関してもう一步踏み込んで取組まないといけない。現在は実施していないので。		退所された後の生活はどのようにされているのか、こちらから関わりを持つようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分の意見の言える人はよいが、言えない人の思いや意向を把握出来ていない。</p>	<p>利用者様一人ひとりの意向をできる限り聞き検討していきたい</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居されるとご家族の来訪も減少するので、入居時にいろいろな情報の収集に努めたい。現在は出来ていないので。</p>	<p>職員全員が把握出来るような記録の方法をとるよう努力したい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>申し送りノート、入居者ノート、ケース記録等で総合的に把握しているが、不完全であると思う。</p>	<p>総合的に把握できるように努力していきたい</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎朝、朝礼時、ミニカンファレンスを開催し、各職員の意見を聞くようにしている。</p>	<p>職員間での思いに差があり、統一した介護計画を作成するまで時間を必要とする。迅速に作成していきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>頭の中では計画を作成していても文書に残すことは遅れているのが実情である。</p>	<p>遅れ気味になっているので、今後は迅速に取り組みたい。</p>



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、入居者ノート等を用意して、各職員情報の共有に努めている。今後も継続していく。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在のところ、十分な対応はできていないと思う。		今後はご家族様や入居者様の要望に対応できる事には対応していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	最近ではあるが、体操のボランティアの男性の来訪が始まり、入居者の方の評判も良い。		体操以外の外出時、買い物時のボランティアの来訪も今後期待したい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月1回の北支所館内のケアマネ連絡会や、グループホーム勉強会に参加し、他の事業者とつながりを持つ。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、実施には至っていない。		連絡を密にしてゆきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回か、月2回の主治医の往診がある。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在のところ、実施には至っていない。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、もう1人看護師資格を持つものが居るので相談しやすい。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族様を交え入院先の看護師さんの話を聞き入居者様にとって良い方法を選択している。		入居者の入院時、病院関係者との連絡を密にし、退院後の入居者の不安や職員のとまどいをなくすよう取り組みたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ、実施には至っていない。		現場の介護職員の所までその方針は周知徹底していないので、全員で共有できるようにしたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在のところ、実施には至っていない。		検討、準備を行っていきたいとおもう

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族の最も心にかけていることなので、ご本人、職員、ご家族共に心身の変化に注意している。		今後も変化に注意していきたい
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴は、1人1人の個浴である。		各入居者の人権を大切にし、尊厳ある生活を送っていただけるよう努力したい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	現在のところ、十分には支援できていないと思う。		自分の意志や意見の言えない入居者のことを思いながら、支援に努める。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理想はそうであるが、なかなか出来ていない。		自己主張の強い入居者ばかりの意見が通っていないか、に注意しながら全体のバランスを考えていくことも大切だと思う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1度、希望者は訪問理美容を利用している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に職員が準備、調理、片付けをしているのが現状である。		各入居者の持っている力を引き出し、能力に応じて力を発揮できる場の提供に努めたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	在宅時はお酒やたばこを飲んでいた入居者も、入所後は特に希望されてはいないが、希望されれば、ある程度の制限をつけて飲めるよう支援する予定。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の時間等を排尿・排便チェックの用紙に可能な限り記録し、パターンをつかむよう努めている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合により実施している場合が多い。夕方から夜間にかけての入浴はしていない。		入浴時の浴槽内の湯は、1回お一人入浴ごとに入れ替えている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜勤者は各居室を訪室し、本日夜勤であるので何かあったら伝えて欲しいよう毎日話している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自己主張の強い入居者の希望を聞き入れやすくなるのを制止する努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	小銭ではあるが、数人の入居者はお金を自己管理 している。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	外出とまでは行かないが、当グループホームの駐 車場での外気浴は行っている。		外出の機会をもう少し増やしていきたい。堺市の 運行するふれあいバスの利用も考えている。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	現在のところ、実施には至っていない。		ご家族の理解と協力を得て、外出できるようした い。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	はがきを購入してもらい。ご家族や親戚に出して いる方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	居室に訪問中は、ゆったりと過ごしてもらえ ようしている。(入浴弛緩を変更したりしている)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	どうしても必要な入居者には、ご家族に説明、同 意の上、安全確保を優先している。		身体拘束に関する説明書に、該当者のご家族の同 意を得た文書を残している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には施錠している。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間2時間ごとの巡視をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪切り、はさみ等、入居者の方が利用される時は貸し出し、使用後は必ず返却してもらっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在のところ、十分にはできていないと思う。		今一度の周知徹底が必要。事故が発生した場合、何が悪かったのかの検証が必要であると思うので、事故報告書提出のみに終わらせないようにしたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行っていない。現在は何もしていないので。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今後夜勤一人体制になるので、、地域の人々の協力を得られるよう働きかけていかなければならない。		今後の重要課題に位置付けしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族来訪時、居室に食物を置いて帰るときがある。誤嚥や賞味期限切れの心配もあるので、置くのであれば一声かけてもらうよう説明している。		リスクに対する説明をしたことなど、今以上に記録に残していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りノート等を使用し、情報共有に努めている。		夜勤帯まで引きずらず、日勤帯での受診を心がけている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員により差がありまた不十分なところもある。		目的、副作用、用法、用量の記録した書類を繰り返し読み、覚え込むようにしたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の記録や排便記録の活用も合わせてしている。		排便が3日間無ければ、服薬や及び看護師に報告し、浣腸処置に結びつけるようにしている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時や夕食後は行っているが、毎食後は徹底できていない。		義歯を自己にて洗浄できない入居者には、職員が変わって洗浄している。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録している。		嚥下能力には問題ないが、水分摂取量が少ない方にはお茶ゼリー等、型を変えての対応も必要と考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	パンフレットの用意はある		全職員の今以上の周知徹底。繰り返しの研修が必要
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	当グループホームで調理する食材はその日のうちに使い切り、残っても持ち越さないようにしている。2時間以内に摂取する。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	現在のところ、十分にはできていないと思う。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に手作りのカレンダーや紙で作った季節の花を飾っている。		安全面に配慮しつつ、もう少し家庭的な雰囲気(例:大きな振り子時計、のれん、すだれ)を出せたらと思う。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、一人になれるような空間はない。居室に戻らないと、一人になれない。		今後は大きな植物を利用したり、ついたて等で一人になる空間作りも取り組みたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度調節を自己管理できる入居者には、リモコン を渡している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	フロア、廊下、浴室、トイレに手すりがある。	
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	浴室やトイレには、扉に大きな文字を貼り、分か りやすくしている。各居室には表札をつけ ている。	
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	質素なテーブルと廃物利用した椅子ではあるが、 屋外での外気浴に使用している。	季節の植物が建物の周囲にあればと思う。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

企画し、実行しても継続できていないことが多いが、誕生日会だけは開所からずっと継続している。入居者の誕生日のおやつ時に好物のおやつを召し上がってもらって